

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援ルームすたーとる			
○保護者評価実施期間	令和 8年 3月 10日		～ 令和 8年 3月 20日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数)	8人
○従業者評価実施期間	令和 8年 5月 1日		～ 令和 8年 5月 10日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2人	(回答者数)	2人
○訪問先施設評価実施期間	令和 8年 3月 10日		～ 令和 8年 3月 20日	
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	6力所	(回答数)	6力所
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 5月 20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門性の高い知識と技術を用いて、具体的な支援方法の提案を行っている。	アセスメントを丁寧に行い、ニーズに沿った支援方法の提案を行うよう努めている。保護者の情報や訪問先の先生方の困り感に寄り添いながら、実施可能な方法を提案している。	今後も引き続き利用児やご家族、訪問施設との共通認識を図りながら支援していく。
2	利用児の集団適応状況を確認しながら支援を行っている。	保護者の想いを重視しつつ、関係機関機関と情報連携や共有を密にしながら、様々な視点から利用児の状況を確認している。	定期的なモニタリングやアセスメントを行い、子どもの成長や変化に合わせて、支援計画を検討しながら、直接支援及び支援助言等を行う。
3	市就学支援事業等にも参加しているため、子どもを多面的に見ることができ、情報共有ができる	市主催の事業等とも協力連携しながら、多面的な支援ができるよう情報共有を行っている。	複数の職員で関わることで支援の幅が出てくると思われることから、今後訪問支援員を増やす予定である。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援員が児発管を兼務しており、すべての希望に沿う形での訪問支援の実施が難しい。	訪問支援員に対して、利用希望児が多い。	訪問支援の必要性の検討及び、訪問支援員の確保。
2	訪問先との行事等や、事業所での業務と併行して行うため、調整が難しいことが多く、訪問回数が確保できない。	観察に加えカンファレンスの時間調整が難しい。	保護者や訪問先のニーズを聞きながら、柔軟な対応について検討を行う
3	全てのニーズに応じることが難しい。	言語聴覚士や作業療法士等のリハ職の不足	言語聴覚士や作業療法士等の職員確保